

2012年 白道会大会

正義は負けろ

—NHK 心の時代司会 亀井 鑛 先生—

去る八月十九日・二十日、蔵本通支坊で白道会大会が開催され、NHK心の時代で随時司会を務める亀井鑛先生におこしいただきました。大会期間中開催される公開講演会は、社会に開かれたお寺を目指して今年で十回目。約百五十名を超える参加者で本堂は満堂となりました。(以下は公開講演会の一部を要約)。

一門徒として

私が身につけているのは門徒輪袈裟(本願寺派では門徒式章という)といひまして、私はこれ以上のものをかける資格のない、一在家門徒で、皆さんと同じ生徒の立場でございます。今まで五十年聞法を続けてまいりましたが、今日は同じ門徒同士として、ざつくばらんに聞きいただきました。



亀井鑛 (かめいひろし) 先生

いと思います。

聞法のきっかけ

仏法を聞く以前の私は、お寺とは全く反対の方向を向いていました。仏教なんてものは世の中に何の役に

立つものではないと、白い目でながめていて、お世話になつたお寺のご住職に言いたい放題言つて楯突いていました。ところがご住職は、そんな私に対して不機嫌になつたり顔色変えてしかりついたりなさらなかつ

たんですね。「いやあ、あなたの仰有ることよくわかる、私も実はお寺が嫌いで、後を継ぐのが嫌で、宗門の

生活体験を通して学ぶ

今ふり返つて思いますのは、毎月毎月お寺へ通つて、ご住職ご自身の生活体験の話をお聴きして、生活の中の体験を通して学ぶことが非常に大切なことだと思います。

ある時ご住職は、バスの中でお婆さんに席を譲つた。ところがそのお婆さん、降りる際に御礼も言わず、立っているご住職ではなく自分の友だちに席を譲つて降りていった。「なんとというクソババアだ。」その姿を見送つた次の瞬間、ご住職はハツと気づかされた。

日頃お寺で、「人間というものはいつでも自分を真っ先に押し立てて、そして自分というものを中心にして物を計つてゆく、得手勝手な横着がままな人間の